

提言書

「Heart of Tajimi ーたじみ市民討議会 2014」に関する提言書

平成26年6月21日、22日に開催されました「Heart of Tajimi ーたじみ市民討議会 2014ー」に於いて討議された意見を以下のとおり提言いたします。

大テーマ『日本一住みやすいまち「たじみ」』

中テーマ『「いま」と「これから」の「たじみ」について考えよう

～少子高齢化時代のまちづくり～』

討議テーマ1：高齢者の社会参加をより一層促すために必要なものは？

高齢者（特に男性）の社会参加は、その動機付けが重要であり、参加に踏み出すための後押しをするタイミング及び、メニューの充実が相まって実現すると考えます。

これらを満足するために以下3点を提言いたします。

- ・社会参加を促すための動機付けのひとつとして、社会参加の実績を地域マネーに変換可能なポイントとして計上する制度など、誰もが無理なく日常生活と社会参加を両立できるようなシステムの構築、ひいては自己実現欲を実感できる仕組みづくりを望みます。
- ・社会参加を促進するため、人生の節目（定年退職時・前期／後期高齢者になる時など）に、より行動に移しやすい情報提供になるよう、手法（テレビ・情報誌・インターネット）の見直しを望みます。
- ・既存の活動メニューだけでなく、各自が思い描く活動を募集し、奨励するなど行政の後押しを望みます。

また、上記施策をより効果的にアピールするために、あらゆる可能性を排除せず検討の上、企画・実践することを望みます。

討議テーマ2：高齢者とともに皆が活躍できる仕組みを考えよう

高齢者とともに皆が活躍できるように、多世代交流が可能な場とコンテンツの創出及び、社会活動・イベントへ参加しやすくなる仕組みを求めます。

- ・高齢者から若い世代に対して子育てに関する情報、昔の遊びや戦争体験などを伝え、若い世代から高齢者に対してパソコン、スマホの使い方を伝えるなど、世代を超えてふれあう、伝え合う場とコンテンツの創出を望みます。
- ・活動未経験者が活動しやすいよう、気軽に少人数で参加できる仕組み及び、既存の団体がより簡単に活動内容を広く公開できるような仕組みを望みます。
- ・活動参加に伴う移動などの負担を軽くするために、交通手段の拡充（バス停の増設、高齢者同士のお迎えサービス・ガソリン代の補助）及び、個人ボランティアに対する保証（保険）などの充実を望みます。
- ・イベントへ参加しやすい仕組み（交通手段、声かけ、広報）や既存の仕組み（シルバー人材センター、ききょう大学、他既存団体）をより広く伝え、活用し、より継続が図りやすくなるような仕組みを望みます。

討議テーマ3：これからの多治見のまちづくりに必要なものは何ですか？

これからの多治見の街づくりについて、人々が自らの意識を高めつつ社会参加が容易にできるよう、以下の通り提言します。

- ・みんなが気軽に集まれる、ひいては多治見に住みたいと思えるような街にするために各種施設（レジャー、シネコン、道の駅など）を整備するとともに大学や企業を誘致することで経済的にも安心できる基盤作りの推進を望みます。
- ・人々の意識を高めることが、多治見の魅力作りにつながっていきます。そこでみんなで街をきれいにする仕組みを通して意識を高めていきたいと考えます。同時に行政側には多治見の自慢になるような政策（太陽光日本一など）を望みます。
- ・多治見には既に様々ないいものがありますがこれらが十分に伝わっていないと思われます。そこで、情報発信の仕組み、方法などを見直しつつ、必要な人に必要な情報が確実に届くような仕組み作りを求めます。
- ・様々な世代の人が安心して暮らすために、高齢者には高齢者向けマンションのような場所、子育て世代には低料金の託児所、といったものを望みます。これらを活用することで人と人のつながりも創出できるようにすると良いと思います。

討議テーマ4：これからの多治見をどんなまちにしたいですか？

私たちが暮らす多治見をより魅力的なまちにするために、以下のことが必要だと考えます。

- ・暮らしやすいまちにするために、大型ショッピングモールのような便利で楽しい商業施設（商店街の集積など）を望みます。
- ・すべての世代が安心して健康に暮らせるまちにするために、医療の充実（生活習慣病などの予防医療）に取り組むことを望みます。
- ・豊かで自慢できるまちにするために、今ある自然を活かした観光産業やイベントの充実を望みます。
- ・経済的な豊かさも必要です。そのために、地場産業の発展を通じた雇用の創出を望みます。

平成26年 9月 3日

たじみ市民討議会実行委員会
実行委員長 吉田 有記